

Schubertiade

シューベルティアーデ

2007年2月25日（日）

日本大学カザルスホール

主催 男声アンサンブル PaPas

協賛 西京ハウス株式会社

シユーベルティアーデによせて……

哲学者ニーチェはシユーベルトの音楽について「消耗されることのない独創の宝」と言った。そのメロディーの美しさは新鮮な響きと豊かな表情をはぐくみ、人の心に郷愁を感じさせる独特のものがある。

それは単に歌曲のみならず、ピアノでもオーケストラでも新鮮でみずみずしく流れ、深い感銘を与える。

彼の二十代後半(彼の人生の4分の3を過ぎていた)の音楽の深まりはたとえようもなく、またその奥深さ、繊細さという面で前例がなく、崇高な魂の高揚をみせている。ピアノの巨匠、アルトゥール・シュナーベルがいみじくも言った。「シユーベルトは神に最も近い作曲家」と。

この度、ヒアニスト峯村操氏、平島誠也氏、そして本庄篤子氏をはじめとする弦楽奏者の方々と共に、私の愛する男声アンサンブル PaPas の諸君と、この一刻、シユーベルトの音楽を存分にを楽しむことができればと願っている。

この会の開催にあたり私の門下の人達の多大なる協力に大変感激している。そして、最後にいつもすばらしいアレンジをして下さっている小山和彦氏に心から感謝を申し上げる次第である。

砂川 総

PROGRAM

第1部

□ 「美しき水車小屋の娘」より

- 第 2 曲 Wohin?
- 第 6 曲 Der Neugierige
- 第 16 曲 Die liebe Farbe

□ 「白鳥の歌」より

- 第 1 曲 Liebesbotschaft
- 第 2 曲 Kriegers Ahnung
- 第 12 曲 Am Meer

□ Ave Maria *

□ Wiegenlied *

□ ピアノ五重奏曲

"Die Forelle" (鱒)より 第 4 楽章

指揮	砂川 稔
合唱	男声アンサンブル PaPas
ピアノ	平島 誠也
* ボーカリスト	小澤 賢哲
◆ 弦楽合奏	ヴァイオリン 本庄 篤子 ヴィオラ 植村 理一 チェロ 植草 ひろみ コントラバス 大西 雄二
編曲	小山 和彦

ピアノ	峯村 操
ヴァイオリン	本庄 篤子
ヴィオラ	植村 理一
チェロ	植草 ひろみ
コントラバス	大西 雄二



休憩



第2部

□ Moment musicaux (「樂興の時」) D.780 より ピアノ

- Nr.2 変イ長調
- Nr.4 嬰ハ短調
- Nr.6 変イ長調

峯村 操

□ 「冬の旅」より

- 第 1 曲 Gute Nacht
- 第 5 曲 Der Lindenbaum
- 第 13 曲 Die Post
- 第 21 曲 Das Wirtshaus
- 第 24 曲 Der Leierman

指揮 砂川 稔

男声アンサンブル PaPas

合唱 平島 誠也

ピアノ ヴァイオリン 本庄 篤子

ヴィオラ 植村 理一

チェロ 植草 ひろみ

コントラバス 大西 雄二

□ セレナーデ 2 題

- Ständchen (「白鳥の歌」第 4 曲 Rellstab) ♦
- Ständchen (Shakespeare's Cymbeline) ♦

編曲

小山 和彦

□ Du bist die Ruh ♦

演奏曲目について

第1部

- 歌曲集『美しき水車小屋の娘』全20曲より（1823年作曲）
 - ・Wohin?（どこへ） 渡り職人として修行に出た若者は、小川の導きで粉挽きの水車小屋を見つける。そこには美しい娘がいて、たちまち恋に落ちる若者…。
 - ・Der Neugierige（知りたがる男） 恋をする男の知りたいのは、娘の気持ち。
 - ・Die liebe Farbe（好きな色） あの娘が好きな緑色。でも僕にとっては悲しい色になった…。
- 歌曲集『白鳥の歌』全14曲より（1828年作曲）
 - ・Liebesbotschaft（愛の使い） 銀色にさざめく小川よ、私の便りを、あの娘に伝えておくれ…。
 - ・Kriegers Ahnung（戦士の休息） 野戦地で深い眠りにつく仲間達。俺は、あの娘を思うと胸が焦がれるばかり。心よ励め、戦いの日々だ。…恋人よ、おやすみ。
 - ・Am Meer（海辺にて） 裏寂れた漁師の小屋で黙って座る二人。鳴…。
- Ave Maria（1825年作）
英国の詩人スコットの詩で構成された物語『湖上の美人』に、シューベルトは7曲を作曲した。「エレンの歌第3」が原題。主人公のエレンが、父の許しをマリア像に祈る歌。
- Wiegenlied（子守唄）（1816年作）
シューベルト19歳の作。リズムが揺りかごのイメージにつながる。
- ピアノ五重奏曲 "Die Forelle"（鱒）より 第4楽章（1819年作曲）
軽快なピアノ五重奏曲。第4楽章に、歌曲「鱒」のメロディが変奏のテーマに使われている。
通常のピアノ五重奏曲と楽器編成が違い、コントラバスがはいる。

第2部

- ピアノ曲 Moment musicaux（楽興の時）より3曲（1823～1828年作）
シューベルトが26歳から晩年までに書いた6曲のピアノの小品を集め、1828年に出版された独奏曲集。シューベルトは、この年11月に31歳で世を去った。
- 歌曲集『冬の旅』全24曲より（1827年作曲）
 - ・Gute Nacht（おやすみ） 花咲く五月、恋に落ちた若者は、冬が来て恋に破れる。若者は、恋家の戸口に“おやすみ”と書き残し、冬の旅に出る。
 - ・Der Lindenbaum（菩提樹） 泉のほとりの菩提樹。喜びにつけ悲しみにつけ、その木の元に出かけたものだ。目を閉じると葉がそよぎ「友よここにおいで。ここには、お前の安らぎがある」と言っているようだった。
 - ・Die Post（郵便馬車） 彼方から郵便馬車の角笛が響く。「どうしてそんなに高鳴るんだ？ 我が心よ。馬車はあの人の町からやってきたのか。今はどうしているか訊いてみたいのか。」

- Das Wirtshaus (宿)

疲れ果て墓地へたどりついた。墓の前に置かれた緑の花輪は、宿に誘う目印なのか?なのに宿は満員で泊まれないって。仕方ない、杖にすがって先へ行こう。
 - Der Leierman (辻音楽師)

村はずれで老辻音楽師が、凍れる指でライヤー(手回しオルガン)を奏でる。周りで犬がうなっているが、おかまいなしだ。「老人よ、俺と一緒に旅をしようか。俺の歌に合わせライヤーを奏でてくれるかい!……」
- Ständchen (セレナーデ) “シューベルトのセレナーデ”として有名なのは歌曲集『白鳥の歌』に収められたもの。ギターの伴奏を模したピアノの伴奏に乗って、秘めやかに歌いだされる夜のセレナーデ。
- 「聴け聴けひばり」の曲名で知られる曲は、シェークスピアの詩に作曲した明るい晴れやかなセレナーデ。
- Du bist die Ruh (君こそ我が憩い) 君こそは我が憩い、平和な安らぎ、また憧れです。君と一緒にいる喜びで、僕の心を一杯にしてください。僕の目を、光で満たしてください。

(平澤 輝雄)

砂川先生と PaPas のシューベルト

宮崎 静也

(国立音楽大学声楽科卒業・ぐるーぶみのあ)

音楽大学を卒業して 30 余年、音楽とは無関係の仕事をしている私にとって、砂川先生指揮による PaPas の公演は、毎回楽しみにしている演奏会の一つである。何といっても 70 才を越えられた先生が、30 年前と変わらぬ情熱で作品に取り組んでいる姿は、弟子であった私に生きる力を与えてくれる。中でも、シューベルトの作品の演奏を聴いたときその芸術性の高さを思い知らされたのである。

人はこの世に命を授かった時、それだけで神の祝福を受けたものといえるであろうが、命ある限り迷れようのない寂しさや苦しみが、悲しみにも似た感情となり熱く込み上げてくるのである。これこそがシューベルトの「魂の言葉」を伝えようとする砂川稔の世界である。

私は、アマチュアに関係なく、より高い音楽性を求める先生の指導、必死で応えようとする PaPas のメンバー。しかし演奏中、演奏後の幸せそうな顔、歎しかったであろう先生の指導を経て喜びと充実感に浸っている。これ程に先生の芸術を素直に吸収し表現しようとした音大生がいたのだろうか……。

砂川先生の芸術の真髓に触れた PaPas のメンバーの方々に、心から拍手を送ると共に、弟子の一人として嫉妬に似た感情を禁じえない自分である。

更なるご発展を衷心より願う。



砂川 稔

国立音楽大学声楽科卒業。数々のオペラ、演奏会、放送などに出演するなど活動した後、ウィーンに留学。

1964年ウィーンにて「ミサ・ソレムニス」でデビューし、その後「クリスマス・オラトリオ」等のテナーソリストとして活躍。帰国後、国立音楽大学及び大学院で声楽、オペラを指導する一方、演奏活動では二期会オペラに多数出演する。70年イッセルシュテット指揮読響の「ミサ・ソレムニス」をはじめ各オーケストラのソリストとして協演する。



近年は、指揮者としても活躍し、モーツアルト及びフォーレ「レクイエム」、バッハ「コ短調ミサ」、ヘンデル「メサイア」などの宗教曲、またモーツアルト・ピアノ協奏曲などを指揮する。92、93年には立川市において連続して「魔笛」、95年には「ラ・ボエーム」の総監督、05年には立川市民オペラ「カルメン」の芸術監督をつとめる。ここ数年、男声合唱団 PaPas を主宰、常任指揮者として、毎年定期演奏会を持つ。

現在国立音楽大学名誉教授。二期会会員。



男声アンサンブル PaPas

声楽家砂川稔氏の指導・指揮の下に、真の音楽と緻密な男声合唱を追求するグループとして活動。メンバーの多くは大学での合唱経験者で、それに音大出身の若手歌手が数人加わっている。

2003～05年の定期公演でシーベルトの三大歌曲集を男声合唱で取り上げ、ドイツ語と奥の深い音楽性を表現していることで好評を博した。2006年11月には第6回定期演奏会を紀尾井ホールで開催し、その折にも「シーベルトへの感謝と賛美」と題するステージを組んでいる。

PaPasは発足以来、海外の貧しい人々の生活の基盤作りを支援し、財団法人キープ協会およびハイチ友の会を通じて、フィリピン・ルソン島の北部奥地にあるツルガオ村における小規模水道設備、小型発電設備の設置等の村づくり、ハイチの女性の自立のためのミシンの供与に協力している。



ホームページ

http://www.nic.jp/asahi/excelcom/mag/ensemble_papas/index.html

音楽スタッフ

ピアニスト 大園麻衣子・伊倉由紀子・成内由貴子・廣田真理子
コーチ 佐藤哲也・松原 進

Top Tenor

阿部洋一・後藤 騎・佐藤哲也・小路明義・砂川 真(団代表)・平澤輝雄

Second Tenor

一法師信武・内田善朗・清田正隆・二郷松鶴・日野忠彦

Baritone

太田信也・岡田 隆・草光 麻・津田由信・橋口 優・松原 進

Bass

縣 正彦・東 宏(団副代表)・神津 進・藤井宏治・山内治輔

峯村 操 ピアノ

長野県上田市出身。東京藝術大学ピアノ科を卒業後、ベルリン国立芸術大学に留学。1988年ボルトー国際音楽コンクールでセミ・ファイナリスト、自由ベルリン放送に出演。同大を首席で卒業。帰国後は「演連コンサート」(文化庁助成)を皮切りに各地でソロ・室内楽、歌曲の伴奏、合唱指揮等の演奏活動を行っている。2000年に岩城宏之指揮/NHK交響楽団、2002年に円光寺雅彦指揮/読売日本交響楽団とベートーヴェンのピアノ協奏曲を共演。近年のリサイタルでは知られざる作品の紹介にも力を注いでいる。ピアノを小川武男・君恵、山崎冬樹、伊達純、ラズリ・シモン、ジョルジ・シェベックの諸氏に師事。文教大学教育学部教授。



平島 誠也 ピアノ

長崎市出身。ピアノを中野章三郎、歌曲伴奏をコンラート・リヒター及びアーヴィン・デイジの各氏に師事。武蔵野音楽大学、ドイツ国立シュトゥットガルト芸術大学、チューリッヒ音楽院で学んだ後、スイスのルツェルン歌劇場専属コレベティールとなる。名歌手シルヴィア・ゲスティの伴奏者としてヨーロッパ各地で多くのコンサートを行い、2004年に出版された彼女の自叙伝では、それを人生で最も美しかった日々とゲスティ自身回想している。帰国後もリサイタルの伴奏者として様々な歌手と全国各地で演奏しており、テレビの「名曲アルバム」やFM放送のクラシック番組にも出演。NHK「海外ベストオブクラシック」ではリーダーアーベントの解説を三夜務めた。CD録音においても伴奏者として多くの歌手と共に演している。2002年より、毎年夏ドイツで開催されているドイツ歌曲の講習会に伴奏法講師として参加。現在、国立音楽大学、昭和音楽大学、桐朋学園大学講師。口独リーダークライス理事、日本フーゴー・ヴォルフ協会同人。



小澤 賢哲 ボーカリスト

日本に数少ない小学生男子だけで構成される、TOKYO FM少年合唱団でソリストとして活躍後、昨年卒団して、現在は同合唱団OB。横浜国立大学付属鎌倉中学校1年在学中。



弦楽合奏

本庄 篩子 ヴァイオリン

東京藝術大学卒業。同大学院修士課程修了。東京ソリストコンサートマスターを経て、現在リマト室内合奏団主宰、(財)ニューフィルハーモニー・オーケストラ千葉コンサートマスター。

植村 理一 ヴィオラ

東京藝術大学音楽学部付属音楽高等学校卒業、同大学入学。米国シンシナティ州立大学留学、首席卒業。現在東京藝術大学管弦楽研究部講師。イオカルテット、ヴィオラ奏者。

植草 ひろみ チェロ

東京藝術大学卒業後、10年間新日本フィルハーモニー交響楽団に在籍。在団中2年間米国シンシナティに留学。CD "Cafe1930" をリリース。現在、聖徳大学講師。リマト室内合奏団メンバー。

大西 雄二 コントラバス

リマト室内合奏団、アンサンブル・アディ、アンサンブル・アルス・ノヴァ、古典音楽協会等に所属して室内楽中心の演奏活動を行なう。聖徳大学及び付属高校音楽科非常勤講師。

価値ある都市生活の創造
Urban Status Create



西京ハウス

©男声アンサンブル PaPas

編集 平澤 輝雄

制作 縣 正彦